

石西礁湖自然再生協議会の体制について

第 13 回石西礁湖自然再生協議会で、普及啓発グループから報告・提案された「ロゴマークの作成」や「協議会の体制」の検討結果

1 石西礁湖自然再生ロゴマークの作成

現在、ニュースレター等に使用している右記のマークに代わる新たなロゴマークを作成してはどうかとの提案がありました。

ロゴマークは、現在の認知度をいかして現在のマークをそのまま利用するか、広報も兼ねて公募するかを、今後の協議会等で検討を続けていくこととなりました。

また、ロゴマークを決定した場合は、その利用方法等を検討していくこととなります。



2 石西礁湖自然再生協議会の体制について

普及啓発グループでは、「石西礁湖自然再生の取り組みについて、広く理解を求め、活動に協力してもらい、更には活動主体となってもらう（全体構想 p54 抜粋）」ため、協議会の体制について検討してきました。

今までは、どちらかと言うと協議、情報交換の場というところにウェイトがありましたが、より強力な実施推進のための体制を見直し、「関係者の意識の向上」を推進し、自然再生がより実効性をともなうような「実働性のある取組体制」にする必要があるとの意見が出されました。

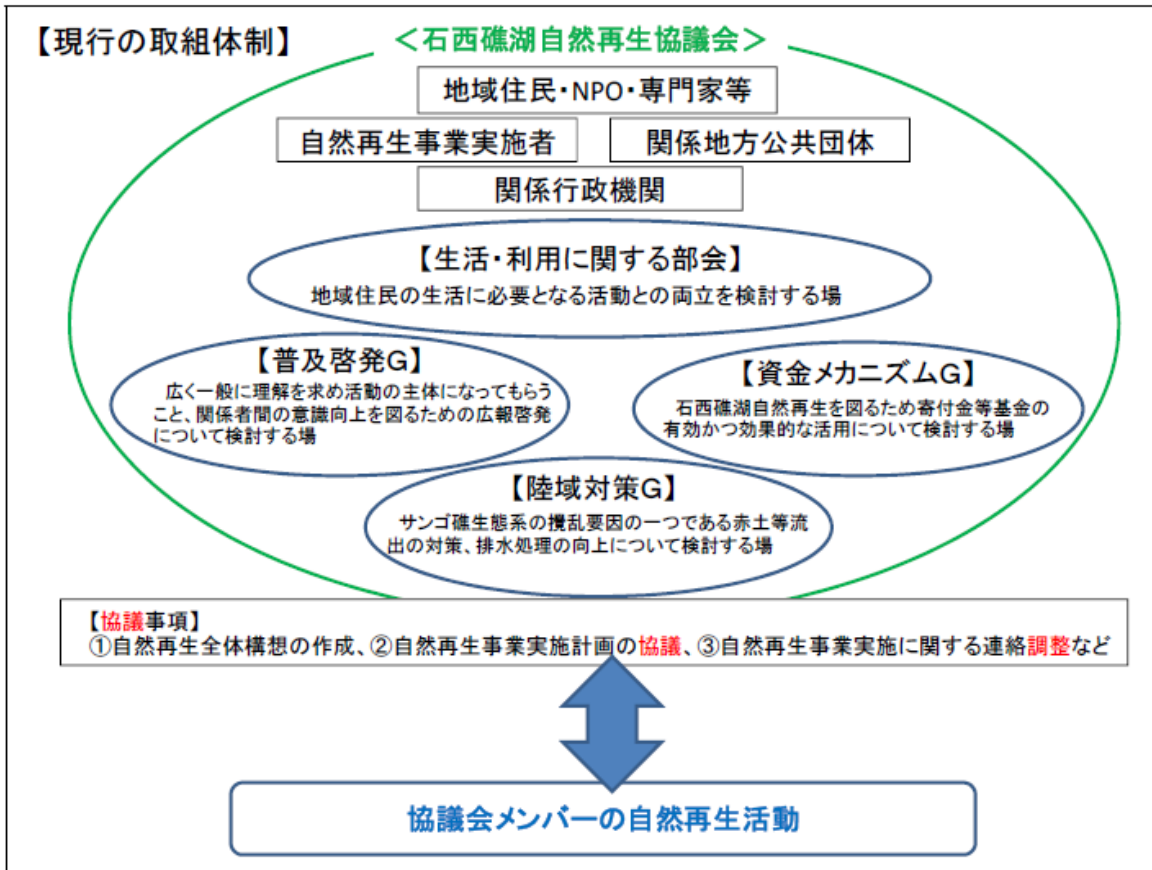
■体制変更によって想定されるメリット

- ・ 自然再生のより細かいテーマについて効率的な検討の場を持つことができる。
- ・ 自然再生活動を実働していく組織づくりとする。
- ・ 地域主導で、機動性のある運営体制とする。
- ・ 協議会メンバー以外の参加が容易となる。

■体制変更によって想定される課題・問題点

- ・ ワーキンググループ（WG）運営事務局が複数となる。
- ・ WG ごとにリーダー、サブリーダーを決める必要がある。
（できれば地域/八重山の方をお願いしたい）
- ・ 協議会規約、運営細則上の部会体制を整理する必要がある。
- ・ WG が実際に動くのか心配。
→実働しない WG もあるのではないか。

【現在の体制】



【新しい体制（案）】

